

民事訴訟用印紙法(明治二十三年八月法律第六十號)

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別

- ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ
- 訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十錢
- 同 十圓マテ 三十錢
- 同 二十圓マテ 六十錢
- 同 五十圓マテ 一圓五十錢

- 同 七十五圓マテ 二圓二十錢
- 同 百圓マテ 三圓
- 同 二百五十圓マテ 六圓五十錢
- 同 五百圓マテ 十圓
- 同 七百五十圓マテ 十三圓
- 同 千圓マテ 十五圓
- 同 二千五百圓マテ 二十圓
- 同 五千圓マテ 二十五圓
- 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合ス

民事訴訟用印紙法

ルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アランコトヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一題毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百

九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從

ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印

紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印

紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セ

サル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不

足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

民事訴訟用印紙法

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

家資分散法(明治二十三年八月法律第六十九號)

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲ス可シ

右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得
此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ

家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第五十五條以下ヲ準用ス

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ效力ヲ有ス

民事訴訟法第十四條ニヨリ國ヲ代表スル規定

(明治二十四年一月 勅令第三號)

第一條 各省北海道廳及府廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス (明治二十五年一月 勅令第六號ヲ以テ改正)

第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得 (同上)

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス (同上)

第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルキハ本令ニ依ルノ限ニアラス

民事訴訟費用法中改正 (明治三十三年 法律第三號)

第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ用スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

訴訟書類郵便送達手数料 (明治二十四年六月 勅令第五十四號)

民事訴訟法百三十六條ニ依リ郵便ヲ以テ訴訟書類ノ送達ヲ爲ストキハ郵便稅書留手数料ノ外送達手續料トシテ一通ニ付五錢ヲ納ムベシ但シ其手数料ハ郵便切手ヲ以テ前納スルモノトス

民事訴訟法第一百五十二條ニ依ル送達ノ囑託

民事訴訟費用法中改正 訴訟書類郵便送達手数料 二百九十七
民事訴訟法第一百五十二條ニ依ル送達ノ囑託手續標準

手續準據方(明治二十四年九月)

(司法省令第七號)

民事訴訟法第五十二條第五十三條ニ依リテ爲ス送達ノ囑託ニ付キテハ明治二十三年當省民第九五號訓令ニ從フヘキモノトス

民事上告豫納金手續(明治十年二月)

(布告第十九號)

第十六條上告者ハ其上告狀ニ添ヘテ金拾圓ヲ上告裁判所ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預ケサルトキハ上告ヲ爲スコトヲ得ス(明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例ヲ十二號ヲ以テ大審院ヲ上告裁判所ト改メ本條ハ當分其效力ヲ有スル旨ヲ示ス)

- 第一 若シ上告ヲ取上サルトキハ其預リ金ヲ没入ス
- 第二 若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破棄シタルトキハ預リ金ヲ還付ス
- 第三 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之レヲ斥ケテ原裁判ヲ破棄セ

サルトキハ預リ金ヲ没入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム(被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云フ)

● 刑法

刑法

刑法附則

監獄則

監獄則施行細則

竊盜ノ罪ニ關スル件

公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件

刑法新舊法比照

罰例處斷法

決闘罪ニ關スル件

富興行禁止

當籤賣買者等處分方

憲兵卒職務ニ關スル犯罪處斷方

軍人制服着用無燈火乘馬ノ件

陸軍上等卒犯罪處斷方

爆發物取締罰則

命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件

省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則

刑法附則中改正

監獄則中改正

監獄則施行細則中改正

瀆職法

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件

軍港要港規則違犯者處分

勳章年金褫奪停止

議會並議員保護ノ件

第三十六號

刑法附則ノ遺改定條條此旨布告候事

軍實條例施行ノ期日ニ追テ布告スル事

明治卅四年第廿六號布告ヲ以テ十五年一月一日ニ施行同年第廿六號布

告ヲ其ノ附則ニ定ム

(附則)

刑罰別冊ノ通改定候條此旨布告候事
但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事
明治十四年第三十六號布告ヲ以テ十五年一月一日ヨリ施行同年第六十七號布
告ヲ以テ附則ヲ定ム

第三十六號

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事

但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事

明治十四年第三十六號布告ヲ以テ十五年一月一日ヨリ施行同年第六十七號布
告ヲ以テ附則ヲ定ム

(別冊)

刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 徵償處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

刑法目錄

第一章	法例	一	丁
第二章	刑例	二	丁
第一節	刑名	二	丁
第二節	主刑處分	四	丁
第三節	附加刑處分	八	丁
第四節	徵償處分	八	丁
第五節	刑期計算	十一	丁
第六節	假出獄	十二	丁
第七節	期滿免除	十三	丁
第八節	復權	十四	丁
刑法目錄		十六	丁

第三章	加減例	十六丁
第四章	不論罪及ヒ減輕	十九丁
第一節	不論罪及ヒ宥恕減輕	十九丁
第二節	自首減輕	二十二丁
第三節	酌量減輕	二十二丁
第五章	再犯加重	二十三丁
第六章	加減順序	二十五丁
第七章	數罪俱發	二十五丁
第八章	數人共犯	二十七丁
第一節	正犯	二十七丁
第二節	從犯	二十八丁

第九章	未遂犯罪	二十八丁
第十章	親屬例	二十九丁
第二編	公益ニ關スル重罪輕罪	三十一丁
第一章	皇室ニ對スル罪	三十一丁
第二章	國事ニ關スル罪	三十二丁
第一節	内亂ニ關スル罪	三十二丁
第二節	外患ニ關スル罪	三十四丁
第三章	靜謐ヲ害スル罪	三十五丁
第一節	兇徒聚衆ノ罪	三十五丁
第二節	官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	三十六丁
第三節	囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	三十七丁
第四節	附加刑ノ執行ヲ違ルル罪	四十丁
刑法目錄		三

第五節	私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ 所有スル罪	四十一丁
第六節	往來通信ヲ妨害スル罪	四十二丁
第七節	人ノ住所ヲ侵スル罪	四十四丁
第八節	官ノ封印ヲ破棄スル罪	四十五丁
第九節	公務ヲ行フヲ拒ム罪	四十五丁
第四章	信用ヲ害スル罪	四十七丁
第一節	貨幣ヲ偽造スル罪	四十七丁
第二節	官印ヲ偽造スル罪	四十九丁
第三節	官ノ文書ヲ偽造スル罪	五十一丁
第四節	私印私書ヲ偽造スル罪	五十二丁
第五節	免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪	五十四丁
第六節	偽證ノ罪	五十五丁

四

第七節	度量衡ヲ偽造スル罪	五十八丁
第八節	身分ヲ詐稱スル罪	五十九丁
第九節	公選ノ投票ヲ偽造スル罪	五十九丁
第五章	健康ヲ害スル罪	六十丁
第一節	阿片烟ニ關スル罪	六十丁
第二節	飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	六十一丁
第三節	傳染病豫防規則ニ關スル罪	六十二丁
第四節	危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品 製造ノ規則ニ關スル罪	六十三丁
第五節	健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑 ヲ販賣スル罪	六十四丁
第六節	私ニ醫業ヲ爲ス罪	六十五丁
第六章	風俗ヲ害スル罪	六十五丁

五

刑法目錄

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ

發掘スル罪 六十七丁

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害

スル罪 六十七丁

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪 六十九丁

第二節 官吏人民ニ對スル罪 七十丁

第三節 官吏財産ニ對スル罪 七十三丁

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪 七十四丁

第一節 謀殺故殺ノ罪 七十四丁

第二節 毆打創傷ノ罪 七十五丁

第三節 殺傷ニ關スル脅迫及ヒ不論罪 七十八丁

第四節 過失殺傷ノ罪 八十丁

第五節 自殺ニ關スル罪 八十丁

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪 八十一丁

第七節 脅迫ノ罪 八十二丁

第八節 墮胎ノ罪 八十三丁

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪 八十四丁

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪 八十五丁

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪 八十六丁

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪 八十八丁

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪 九十一丁

第二章 財産ニ對スル罪 九十一丁

第一節 竊盜ノ罪 九十一丁

附法目錄

第二節 強盜ノ罪	九十三丁
第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪	九十四丁
第四節 家資分散ニ關スル罪	九十五丁
第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪	九十六丁
第六節 贓物ニ關スル罪	九十八丁
第七節 放火失火ノ罪	九十八丁
第八節 決水ノ罪	一〇〇丁
第九節 船舶ヲ覆没スル罪	一〇一丁
第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪	一〇一丁
第四編 違警罪	一〇三丁

刑法附則

第一章 主刑執行	百十一丁
第二章 監視	百十一丁
第三章 假出獄及特別監視	百十五丁
第四章 刑事裁判費用	百十九丁
第五章 賠償處分	百二十二丁
監獄則	百二十四丁
監獄則施行細則	百二十五丁
第一章 通則	百四十丁
第二章 作業	百四十丁
第三章 工錢	百四十六丁
刑法目錄	百四十八丁

第四章	給與	百四十九丁
第五章	衛生及死亡	百五十三丁
第六章	書信及接見	百五十六丁
第七章	差入品	百五十七丁
第八章	教誨及教育	百五十八丁
第九章	賞譽	百五十九丁
第十章	懲罰	百六十丁
竊盜ノ罪ニ關スル件		百六十二丁
公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀		百六十三丁
鑑札ニ關スル件		百六十三丁
刑法新舊法比照		百六十三丁

罰例處斷法	百六十七丁
決闘罪ニ關スル件	百六十九丁
富興行禁止	百七十丁
富籤賣買者等處分方	百七十丁
憲兵卒職務ニ關スル犯罪處斷方	百七十二丁
軍人制服着用無燈火乘馬ノ件	百七十二丁
陸軍上等卒犯罪處斷方	百七十二丁
爆發物取締罰則	百七十三丁
命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件	百七十五丁
省令廳令府縣令及警察令ニ關スル	
罰則	百七十六丁

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪則テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

刑法 總則、法例

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得
ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從
フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期徒刑

五 有期徒刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違背罪ノ主刑ト爲ス

刑法 總則、法例、刑例

一 拘留

二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 〇三十一法律第十一號ヲ以テ削除

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ記

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日

ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコ

トヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ

ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

刑法 總則、主刑處分

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セ

禁錮ハ重輕ヲ分テ十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十六條 罰金ハ二圓以上十圓以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多

刑法 總則、主刑處分

憲法區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラズ
- 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラズ

ス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罰ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ

其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期間間公權ヲ行フコトヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 (三十二年法律第十一號ヲ以テ削除)

第三十六條 (同上)

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分

刑法 總則 附加刑

ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
- 三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレト雖モ被害者ノ請求ニ對シ賠償ノ還給損害ノ賠償ヲ免カルコトヲ得ス

刑法 總則、刑名、徵償處分

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人チシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ
受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス
第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トチ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

刑法 總則 刑名 刑期計算 假出獄

流刑ノ四ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ四ハ假出獄ヲ許サルト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

(三十二年法律第十一號ヲ以テ本條中削除)

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中

ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿

免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一死刑ハ三十年

二無期徒流刑ハ二十五年

三有期徒流刑ハ二十年

四重懲役重禁獄ハ十五年

五輕懲役輕禁獄ハ十年

六禁錮罰金ハ七年

七拘留科料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃

走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算

ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出

刑法 總則、刑名、期滿免除

シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復権

第六十二條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得
主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復権ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復権ヲ得ス

第六十五條 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

刑法 總則、復権、加減例

五 輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ二等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下算數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得減シテ二日以下ニ降スコトヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論ヤ
刑法 總則、不論罪及ヒ減輕、不論罪及ヒ宥恕減輕 十九

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ
防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本廳長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ
定メタル者ハ此限ニアラス

罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論
セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ
情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタ
ルト否トヲ審察シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二
十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑
ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘡啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサ
ル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコ
トヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ
滿サル者及ヒ瘡啞者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記
刑法 總則、不論罪及ヒ減輕、不論罪及ヒ宥恕減輕 三十一

載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪過當罪ヲ分タヌ所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量 可キハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレ

刑法 總則 再犯加重

ハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ヅ其定役ニ服

ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル

刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ヅ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ハ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ

初犯ノ罪常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論ス

ルコトヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

- 一 再犯加重
- 二 宥恕減輕
- 三 自首減輕
- 四 酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

刑法 總則、加減順序、數罪俱發

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第一百條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第一百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第一百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第一百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

第一百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第一百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止メ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

刑法 總則 數人共犯 正犯

二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第九九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止々其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第一百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第一百十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未々其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第一百十二條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ并錯ニ因リ未々遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第一百十三條 重罪ヲ犯サンコトヲ謀リ未々遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス
輕罪ヲ犯サンコトヲ謀リ未々遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス
違警罪ヲ犯サンコトヲ謀リ未々遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第一百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者

刑法 總則、親屬例

三兄弟姊妹及其配偶者

四兄弟姊妹ノ子及其配偶者

五父母ノ兄弟姊妹及其配偶者

六父母ノ兄弟姊妹ノ子

七配偶者ノ祖父母父母

八配偶者ノ兄弟姊妹及其配偶者

九配偶者ノ兄弟姊妹ノ子

十配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母

嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ

兄弟姊妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處スル重罪輕罪、皇室ニ對スル罪

下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二百一十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處ス其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百一十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第二百一十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂下同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第二百一十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第二百一十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百一十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第二百一十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百一十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百一十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、國事ニ關スル罪 三十三

内亂ニ關スル罪、外患ニ關スル罪

罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其
他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國
ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シ
タル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要
地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ
第二百三十二條 陸海軍ヨリ委任テ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際
敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ

有期流刑ニ處ス

第二百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止
ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第二百三十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背
シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

第二百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年
以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受ケルト雖モ仍ホ
解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シ

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、靜謐ヲ害スル罪 三十五
徒兇聚衆ノ罪

タル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

第二節 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪

第三百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容者クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百十二條 既決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

刑法

公益ニ關スル重罪輕罪、靜謐ヲ害スル罪、官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪、囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百十三條 既決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内
再ビ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百十三條ノ例ニ同シ但原
犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百十二條ノ例ニ照シ
各一等ヲ加フ

第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムルタメ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方
法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一
年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス
第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條

ノ例ニ同シ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未
遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處
ス

第四百十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知
テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ
二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第四百十二條 他人ノ罪ヲ免カレンシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ
隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、靜謐ヲ害スル罪 三十九
囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

金ヲ附加ス

第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論ゼス

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ

所有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止々正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ悉ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法

公益ニ關スル重罪輕罪、辯護ヲ害スル罪、附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪、私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第六十一條 第五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ專ニ其用ニ供ス可キ者ハ何入ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第六十五條 汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六十九條 第六十五條第六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ入ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、靜謐ヲ害スル罪、往來通信ヲ妨害スル罪、人ノ住所ヲ侵スル罪

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入

リタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入

リタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ

例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ

破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及

ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯

人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、辯護ヲ害スル罪 官ノ封印ヲ破棄スル罪、公務ヲ行フヲ拒ム罪

ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラレ可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作為シ

其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ

三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ

受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラ

レタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナ

クシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其

病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタルモノ故ナクシテ

之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑

ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有

期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シ

タル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、信用ヲ害スル罪 四十七

罪貨幣ヲ偽造スル

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者

ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記

載シタル犯人ノ受ケ可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ

減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造

ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造

シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二

年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未タ行使セサル前ニ於

テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタルト

キハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知前之ヲ行

使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得

ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、信用ヲ害スル罪 四十九
官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ
第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第一百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第一百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第一百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、信用ヲ害スル罪 五十一
官ノ文書ヲ偽造スル罪

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ

前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル者ハ偽造

官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減刑ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月

以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮

ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ

約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變

換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重

禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯

罪ノ例ニ照シテ處斷ス

刑法

公益ニ關スル重罪輕罪、信用ヲ害スル罪

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下

ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、信用ヲ害スル罪 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪、偽證ノ罪 五十五

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ヲ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ノ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑前條内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降ヌコトヲ得ス

第二百二十三條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判所ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事
ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサ
ル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以
下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造
シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一
等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上
三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シ
タル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐
稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭
用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、信用ヲ害スル罪 五十九
身分ヲ詐稱スル罪、公選ノ投票ヲ偽造スル罪

以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐欺ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑

ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役處ニ處ス又ハ罰金ニ處ス
 人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第一節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、健康ヲ害スル罪
 阿片烟ニ關スル罪、飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪
 六十一

第二百四十三條 人ノ食料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ

二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、健康ヲ害スル罪、傳染病豫防規則ニ關スル罪、危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金

第三處又ハ罰金

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫

防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷

ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ

販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ

三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下

ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過

失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、健康ヲ害スル罪

私ニ醫業ヲ爲ス罪、風俗ヲ害スル罪

シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ購シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ醜業シ富藏ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ脱教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ殺類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル處

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル、商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪 六十七

用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月

以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ毀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セ

シメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セズ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サルモノハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、官吏瀆職ノ罪
官吏公益ヲ害スル罪

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解ケコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ二等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢察事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、官吏濫職ノ罪 七十一 官吏人民ニ對スル罪

理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏ハノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢察官警察官吏刑事事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察官警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カセ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處

ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ

刑法 公益ニ關スル重罪輕罪、官吏濫職ノ罪 七十三

官吏財産ニ對スル罪

處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス
第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百八十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル
ト爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス
第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 七十五

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十二日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カレト爲

メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成ズノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時

ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラズ

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

刑法 身體財產ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 七十七
殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第二百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シ

タル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リテ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルニ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第二百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第二百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第二百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ

所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第二百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非シテ

害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ

加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪

ヲ宥恕スルコトヲ得

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 七十九
過失殺傷ノ罪

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱瘓疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過タル毎二一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死
刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 八十一
自殺ニ關スル罪、擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

罪ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ

同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ

待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 八十三 脅迫ノ罪、墮胎ノ罪

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルコト能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾病ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ入ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ寫疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セズ又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪、幼者ヲ略取誘拐スル罪 八十五

二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ救ヲ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス
第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癱瘓疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以

刑法

身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 八十七
猥褻姦淫重婚ノ罪

士六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其
相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告
訴ノ效ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ
重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル
ル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自
首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二
百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス
左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ
三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上
六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣問ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照
シテ處斷スルコトヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職
業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ
論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、身體ニ對スル罪 八十九
誣告及ヒ誹毀ノ罪、祖父母父母ニ對スル罪

但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス
第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ非ス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘リテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、財産ニ對スル罪 九十二

竊盜ノ罪

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養ニ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第三百七十七條 祖父父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ
若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ
一 二人以上共ニ犯シタル時

二 兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ
刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、財産ニ對スル罪 九十三
強盜ノ罪

第三百八十一條 強盜婦女強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減刑ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 遺失物理藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
第三百八十九條 家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主申ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、財産ニ對スル罪 九十五
遺失物理藏物ニ關スル罪、家資分散ニ關スル罪

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關

スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シ

タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子ヲ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、財産ニ對スル罪 九十七
詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス其人ヲ乗載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、財産ニ對スル罪 九十九 贓物ニ關スル罪、放火失火ノ罪

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ル下過失トナ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘

ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重

刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪、財産ニ對スル罪 百二
決水ノ罪、船舶ヲ覆没スル罪、家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵

欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上二十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十二日以上六月

以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以

上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十二日以上六月以下ノ重禁錮ニ處

シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上

四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品

ヲ貯藏シタル者

三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

刑法 違警罪

- 五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
 - 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セシトスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サハル者
 - 七 官許ヲ得ズシテ死屍ヲ解剖シタル者
 - 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
 - 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
 - 十 密ニ竄淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
 - 十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
 - 十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
 - 十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
 - 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ
- 第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
- 五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他四所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サハル者
- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケズシテ埋葬シタル者
- 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚穢シタル者

刑法 違警罪

- 十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
 - 十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
 - 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
 - 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
 - 五 瓦礫ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者
 - 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
 - 七 汚穢物ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者
 - 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
 - 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
 - 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
 - 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
 - 十三 私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
 - 十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
 - 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者
 - 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 - 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

- 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
 - 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 - 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 - 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 - 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
 - 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十 他人ノ鬮キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十一 他人ノ鬮キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ鬮キタル者
 - 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害

ヲ爲シタル者

- 三 車馬ヲ竝ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ竝ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 冰雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戲ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 八 牛馬ヲ牽キ又ハ鬮クコトヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
- 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

刑法 違警罪

十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ賣家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違背罪ヲシタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

刑法

刑法附則(太政官布告明治十四年十二月十九日第六十七號明治十五年一月一日ヨリ施行)

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キコトヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

刑法附則 主刑執行

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩健チンテ之ヲ

検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ處
後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ
許可シ下付スルコトヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ
其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ
記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ
上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

刑法附則 主刑執行

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムルモノハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徴收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

刑法附則 監視

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄
ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執
行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ
其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ(十五年第四十二號布告ヲ以テ改正)

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書
及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 (十五年第四十二號布告ヲ以テ削除)

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ
日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サ
シム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可
シ
第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ讀

聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ
認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能
ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可
シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムニトヲ得サル事故アル時
ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可
シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ

地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ送送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ
第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸著スル實力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸著スル實力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ
第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ

期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ俊改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得
第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ケ可シ

刑法附則 假出獄及ヒ特別監視

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ

刑期ニ算入セサル事

第四十一條 (三十一年法律第十一號ヲ以テ削除)

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其

證票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム

可シ(十五年第四十二號布告ヲ以テ改正)

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六

條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官

吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ル

コト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但

他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトア

ル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所

ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處

強可

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍内ニテ豫審刑事又ハ裁判所之ヲ定ム但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セズ

第四十九條乙 醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金參拾圓乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ豫審刑事又ハ裁判所之ヲ定ム

第四十九條丙 證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ旅費ハ海陸路兩一里ニ付キ金五錢乃至金拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審刑事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アル時ハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第四十九條丁 證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ止宿料ハ一日ニ付キ金貳拾錢乃至金五拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審刑事又ハ裁判所之ヲ定ム但滿八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スル時ニ非サレハ之ヲ給與セズ

第五十條 證人、醫師、鑑定人、通辯人、翻譯人ノ日當、旅費及止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セズ(十六年第三十九號布告二十三年法律第百二號及二十八年法律第三號ヲ以テ改正)

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ價金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ價金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外

附法附則 刑事裁判費用

刑ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時
ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 (三十一年法律第十一號ヲ以テ削除)

第五十五條 (全上)

第五十六條 (全上)

第五十七條 (全上)

第五十八條 (全上)

第五十九條 (全上)

第六十條 (全上)

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文

書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ
程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求
スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ彼
害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監獄則 (勅令明治二十二年七月 十二日第九十三號)

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

- 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄服役ニ關セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セ

ラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘留監獄 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ

罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及癡癡者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 懲治場及留置場ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監及北海道廳

長官府縣知事(東京府ヲ除ク)之ヲ管理ス(二十八年勅令第五百號ヲ以テ本條

中削除)

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡視官ヲシテ各監獄ヲ巡視セシムヘシ

監獄ヲ巡視スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監獄ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ令狀宣告書執行指揮書其他適法ノ文書ヲ查

閱シタル後入監セシムヘシ(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第七條 在監ノ婦女其ノ子ヲ乳養セント請フトキハ其ノ齡滿一歳ニ至ル迄之ヲ

許スコトヲ得(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

但シ監獄則施行細則ニ依リ處分スルハ此ノ限ニアラス(三十二年勅令第三百

四十四號ヲ以テ本條中改正)

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定ス

監獄則

百二十七

其罪ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ適ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 満期ノ者ヲ釋放スルハ其満期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪實ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ

如ク別異ス

一 満十二歳以上十六歳未満ノ者

二 満十六歳以上二十歳未満ノ者

三 満二十歳以上ノ者

四 満十六歳以上二十歳未満再犯ノ者

五 満二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 満八歳以上十六歳未満ノ者

二 満十六歳以上二十歳未満ノ者

三 満二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪實ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 満十二歳以上十六歳未満ノ者

二 満十六歳以上二十歳未満ノ者

三 満二十歳以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分テ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

監獄則

第十七條 定役囚ノ作業ハ刑名罪質年齡技能將來ノ生計等ヲ斟酌シ各自ノ體力ニ應シテ之ヲ課ス(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

前二項ノ外内務大臣ノ認可ヲ得テ臨時服役ヲ免スルコトヲ得

炊事洒掃其ノ他監獄ノ必要ニ因リ使役スル者ハ免役セシメサルコトヲ得(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條追加)

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以內農業者クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ尙ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役囚現役二百日ヲ經タルトキハ重罪囚ニハ其ノ工錢ノ十分ノ一乃至五輕罪囚ニハ十分ノ二乃至六ヲ給ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ニハ其ノ工錢ノ十分ノ七ヲ給ス

定役囚ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦前項ニ準ス(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ之ヲ領置スヘシ(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中削除)

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但シ拘留囚ハ白衣ヲ著スルコトヲ得(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第二十七條 懲治人刑事被告人ノ衣類臥具ハ總テ自辨トシ其ノ種類品數等ハ典獄之ヲ指定ス但シ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス(同上)

第二十八條 囚人懲治人及刑事被告人ニハ各自ノ身體作業ヲ斟酌シ左ノ糧食ヲ給スヘシ
一 下白米十分ノ四、
一 一人一回三合以下

一菜

一人一日三錢以下

地方ノ狀況又ハ在監人ノ體質等ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ得テ前項ノ糧食ヲ變更スルコトヲ得

懲治人刑事被告人ニシテ糧食ヲ自辨セント請フトキハ之ヲ許ス(三十一年勅令第四百號ヲ以テ改正三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第二十九條 囚人懲治人及刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ之ヲ短薙剃除セシム(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨ヲ施スヘシ
刑事被告人ニシテ教誨ヲ請フモノアルトキハ之ヲ許ス(同上)

第三十一條 囚人十六歲未滿ノ者及懲治人ニハ毎日四時以內讀書習字算術等ヲ教フヘシ(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中改正)

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

監獄則

囚人及懲治人中書籍ノ看讀ヲ請フ者アルトキハ感化若ハ紀律ニ妨ケナシト認
メタルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看メト請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判
官ノ承認ヲ經ヘキモノトス(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中改正)

第三十三條 囚人ノ發スル信書ハ一箇月一通トス但シ典獄ノ許可ヲ得タルトキ
ハ此ノ限ニアラス(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ
檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ

之ヲ發贈付與スルコトヲ許サズ但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ
檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立
會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ
之ヲ許ササルコトヲ得

囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ監獄官吏ノ立會ヲ以
テ之ヲ許ス但シ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ
得(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中改正)

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監
房若クハ病室ニ於テ醫治セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付ス
ルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄ハ看守長醫師ノ立
會ヲ以テ之ヲ檢視スヘシ

刑死者ハ死相ヲ檢シタル後仍五分時ヲ過キサレハ其ノ遺骸ヲ絞架ヨリ解下ス
ルコトヲ許サズ

親屬者ハ故舊ニシテ遺骸ヲ請フ者アルトキハ之ヲ下付ス但シ死亡後二十四時
以内ニ在テ其ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬スヘシ

傳染病豫防上必要アルトキハ監署ニ於テ之ヲ火葬スルコトヲ得此ノ場合ニ於
テ

監獄則

ヲ親屬若ハ故舊ニシテ遺骨ノ下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中改正）

第三十八條 懲治人及刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許スコトヲ得但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クハシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中改正）

第三十九條 囚人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便手貨幣及內務

大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中除削）

第四十條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ

確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ

賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ證據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ役服時間座作ノ役ヲ課ス

二 減食 一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本項中改正）

三 闇室 闇室ニ入レ一日ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減シ仍臥具ヲ禁ス（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本項中改正）

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内闇室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

監獄則

- 一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム
- 二 減食 一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本項中改正）

獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閤室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一月以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鈎ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈎ニ貫キ腰間ニ緣帶セシメ緣帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應ジテ之ヲ施スルハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施鈎中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鈎ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施鈎期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ之ヲ免スルコトヲ得（三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ本條中削除）

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監督ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘留スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコト

監獄則

ヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

監獄則施行細則(明治三十二年七月十九日内務省令第三十八號ヲ以テ改正)

第一章 通則

第一條 新ニ入監スル者アルトキハ必要ノ書類ヲ査閱シテ之ヲ領收シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付スヘシ

第二條 入監者ニハ先ツ之ニ番號ヲ付シ通身ヲ検査シ名籍原簿ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ在監人遵守ノ要件ヲ既示スヘシ

第三條 在監人ノ遵守スヘキ事項ハ冊子トシ監房内ニ備ヘ置ケヘシ

第四條 監房前ニハ下部ニ番號入監年月日上部ニ氏名罪質刑名刑期留置期限犯職生年月ヲ記載シタル小札ヲ掲ケヘシ但上部ハ之ヲ掩フモノトス

第五條 領置ノ貨物ハ其品名數量ヲ簿ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

領置ノ貨物ハ本人釋放ノ時之ヲ下付スヘシ

第六條 入監ノ際携帶ノ物品ニシテ監獄官吏ニ於テ保存ノ價值ナシト認メタルモノ又ハ保存ニ堪ヘ難キモノ又ハ保存ニ不便ナルモノハ本人ハ告知ノ上之カ領置ヲ拒ムコトヲ得但本人ノ請求アルトキハ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スヘシ

長期囚所持ノ物品ハ本人ハ告知ノ上之ヲ賣却スルコトヲ得

第七條 在監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第五條第六條ノ例ニ依ル

在監人ノ親屬故舊ヨリ領置貨物ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 總テ監房ニ入ルノ物品ハ之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ之ヲ禁スヘシ

監獄則施行細則 通則

第九條 在監人入房ノ際ハ總テ通身ノ検査ヲ爲スヘシ

通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但工場教誨堂運動場浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ在ラス

男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ女監取締之ヲ行フヘシ

第十條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後直ニ之ヲ調査シテ放免曆簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ

第十一條 釋放スヘキ者アルトキハ典獄ハ名籍原簿ニ照シテ其氏名相貌等ヲ糺シ釋放ヲ言渡スヘシ

第十二條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ其名數ヲ簿冊ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證明セシムヘシ

第十三條 同日ニ數名ノ釋放者アルトキハ各其釋放時ヲ異ニスヘシ但刑事被告人ハ此限ニ在ラス

第十四條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシムヘシ裁判所又ハ其他ニ押送ノトキモ亦同シ

第十五條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第十六條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ニ護送スヘシ

第十七條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ別ニ定ムル方式ニ依テ行フヘシ

第十八條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與ス

已ムテ得サル事故アリテ一時限外ニ出ントテ請フトキハ典獄ニ於テ其事由ヲ取糺シテ許可スルトアルヘシ

監獄則施行細則 通則

第十九條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十一條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十二條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一人ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十三條 死刑ノ執行ハ午前中時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシム

第二十四條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第二十五條 死刑ハ受刑者自衣著用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 雜居監房ハ相當官吏ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノアラサルトキハ此限ニ在ラス

第二十七條 同一監房ニハ二人ヲ拘禁スルコトヲ得ス

餘罪又ハ刑期限内犯罪ノ爲メ審問中ニ係ル囚人ハ一房ニ一人ヲ拘禁スヘシ

第二十八條 囚人ノ監房ニハ疊チ數クゴトヲ得ス但病監又ハ特ニ内務大臣ノ認可アリタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十九條 雜居監房ニ下付スル書籍ハ一人同時ニ三冊ヲ超ユヘカラス但字書ハ此限ニ在ラス

監獄則施行細則 通則

第三十條 監房内ニ在テハ各自ノ席次ヲ定ムヘシ工場ニ在テモ亦同シ

第三十一條 各監房ト看守所間ニハ報知器ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十二條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十三條 各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ彼此供用スルヲ得セシムヘシ

第三十四條 監獄ニハ消防具ヲ備ヘ置クヘシ

第三十五條 極寒ノ季節ニ在テ必要ト認ムルトキハ暖房ノ設備ヲ爲スヘシ

第二章 作業

第三十六條 作業ヲ指定セントスルトキハ先ツ醫師ヲシテ其就業スヘキ者ノ身

體ヲ診査セシムヘシ

第三十七條 作業ハ科程ヲ定メテ服セシムヘシ

科程ハ普通一人ノ働高ヲ以テ等一ニ之ヲ定ム但老若幼者病弱者不具者未熟者等ハ此限ニ在ラス

炊事洒掃看病等科程ヲ付シ難キモノハ一定ノ就業時間ヲ以テ一日ノ科程トス

第三十八條 監獄作業ノ種類ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 外役セシムヘキ囚人ハ刑期ノ二分ノ一ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ之ヲ選ムヘシ但刑期二分ノ一ヲ經過セサル者ニシテ特別ノ必要アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ外役セシムルコトヲ得

刑期六箇月以下ノ者及女囚ハ外役セシムルコトヲ得ス

第四十條 外役ニ服セシムルモノハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハズ笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚人ハ看守二人以上ヲシテ戒護セシムヘシ

第四十一條 理髮紙摺掃除等ノ如キ監獄用ノ業ニシテ終日使役シ難キモノハ副業トシテ之ヲ課スヘシ

第四十二條 作業ノ出來高ハ毎日一回各囚ニ就キ之ヲ検査スヘシ

監獄則施行細則 作業

第四十三條 科程ノ了否ハ一箇月分ヲ積算調査シテ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 服役セシムヘキ在監人ハ左ノ時間就役セシムルモノトス但地方ノ狀況又ハ監獄ノ構造ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ伸縮スルコトヲ得

十一月	七時間	十月	八時三十分	五月	十時間
十二月	七時三十分	三月	九時間	八月	十時三十分
一月	八時間	九月	九時三十分	六月	十時三十分
二月	八時間	四月	九時三十分	七月	十時三十分

第四十五條 無定役囚及刑事被告人ニシテ作業ニ服スル者ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第三章 工錢

第四十六條 作業ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ之ヲ定ムヘシ

工錢ハ六箇月ニ一回以上之ヲ調査料定スルヲ要ス

第四十七條 定役囚ニハ左ノ例ニ從ヒ工錢ヲ給與ス

- 一 初入者ニハ重罪囚十分ノ二輕罪囚十分ノ三
- 一 再入者ニハ重罪囚十分ノ一輕罪囚十分ノ二

但再入者ニシテ刑期一年以上ヲ經過シ作業ニ勉勵スルトキハ初入者ノ例ニ準ズルコトヲ得

第四十八條 免役日ニ於テ囚人ヲ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第四十九條 屏禁處罰中ハ工錢ヲ給與セス

第五十條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月十日以内ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十一條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人及刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニ

監獄則施行細則 工錢、給與

第五十二條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與ス

第五十三條 懲治人及刑事被告人ノ着用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚損其他衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十四條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ記ス

第五十五條 囚人ノ衣類及貸與ノ衣類雜具左ノ如シ

- 一 單衣
- 一 袴
- 一 襪
- 一 履物
- 一 手巾
- 一 枕
- 一 蚊帳
- 一 臥具

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス

雜具

- 一 臥具
- 一 蚊帳
- 一 蒲團
- 一 帶
- 一 手巾
- 一 雨具
- 一 冠物
- 一 履物

監獄則施行細則 給與

以上ノ外用紙ハ別ニ之ヲ給與ス其他必要アル場合ニ於テハ内務大臣ノ許
可ヲ得テ其品目ヲ變更又ハ増減スルコトヲ得

第五十六條 病者ノ衣類雜具ハ醫師ノ意見ニ依リ典獄ニ於テ變更又ハ増減スル
コトヲ得

第五十七條 瘻養ノ爲メ必要ナル飲食物ハ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ給與スヘシ

第五十八條 囚人及懲治人ニシテ二圓以上ノ領置工錢ヲ有シ作業ニ勉勵シ行狀

方正ナルトキハ其請ニ依リ工錢ヲ以テ食物購求ヲ許スコトヲ得但其種類分量

ハ典獄豫メ制限ヲ設ケヘシ

第五十九條 工錢ヲ以テ食物ヲ購求スルハ一月五回以下ニシテ一回金五錢ヲ超

ユルコトヲ得ス但購求費ハ前月分給與工錢ノ三分ノ一以内トス

第六十條 食物ノ購求ハ懲罰中並ニ處罰後一箇月ヲ經ルニアラサレハ之ヲ許

可スルコトヲ得ス

第五章 衛生及ヒ死亡

第六十一條 監獄ハ常ニ清掃シ厠圍竝ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除スヘシ

第六十二條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニシ隔離消毒ヲ嚴ニスヘ

シ

第六十三條 刑事被告人無定役囚及分房ニ在ル囚人ハ毎日三十分時以上監房外

ニ於テ運動ヲ爲サシムヘシ

第六十四條 監獄ニハ體量器ヲ備ヘ置キ入出監ノ際、處罰前後、其他一箇年一

回以上體重ヲ量ルヘシ

第六十五條 衣類臥具其他ノ物品ハ種質ニ由リ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用ヒ臭氣

ヲ除キ蟲害ヲ防グヘシ但病者ノ物品ハ特ニ注意ヲ施シ他物ト混同スヘカラ

ス

第六十六條 入浴ノ度數ハ作業ノ種類其他ノ狀況ニ依リ之ヲ定ム但毎年六月

監獄則施行細則 衛生及死亡

九月マテハ五日毎ニ一回十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一回ヲ下ルヲ得ス
第六十七條 在監人ノ鬚髮ハ常ニ清潔ニ梳理セシムヘシ但衛生上若クハ規律上
必要ト認メタルトキハ之ヲ剃刈スルコトヲ得

第六十八條 髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳ヲ備ヘ置クヘシ

第六十九條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴密ニスヘシ若シ在監人中傳
染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ狀況ヲ詳悉
シ典獄ヨリ所屬長官ヘ申報シ且其旨ヲ市町村役場及警察署ニ通知スヘシ

第七十條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得

第七十一條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルト
キハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其携帶スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十二條 危篤ノ病者アルトキハ直ニ親屬ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ尙
其旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第七十三條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知

スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタ
ルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十四條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ依リ病症及其因由並ニ死亡
ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ依リ死
亡ノ因由及其年月日場所死狀等ヲ詳記スヘシ

第七十五條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲ
テ死亡帳ニ證明セシムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ假葬シタルトキハ棺ニ入レテ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺
五寸ニ過ギサル氏名標ヲ建ツヘシ

第七十六條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖モ下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ
許ス

第七十七條 死亡者ノ領置貨物アルトキハ親屬ニ下付ス
監獄刑施行細則 衛生及死亡

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ公賣シテ代價ヲ遞送スルコトヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

第七十八條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取入ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第七十九條 在監人ヨリ發スル信書ハ一定ノ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘發送スルモノトシ郵便稅ハ自辨トス但郵便端書ヲ用ヒシムルモ妨ナシ

官司ノ訊問ニ依テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ

第八十條 囚人ヨリ發スル信書ハ一定ノ日時ニ於テ認メシムヘシ但要急ノモノハ此限ニ在ラス

第八十一條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ其氏名身分住所職業及事由

ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過ケルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監ニ押送以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

辯護人トノ接見ハ前項ノ限ニ在ラス

第八十二條 接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ容貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

第八十三條 接見ノ際在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會、女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會フヘシ

第八十四條 病者トノ接見ハ危篤ノ際ニ限リ病監ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十五條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第七章 差入品

監獄則施行細則 書信及接見、差入品

第八十六條 刑事被告人及懲治人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及煙草ヲ除キ監獄内ニ於テ炊煮ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第八十七條 總テ差入品ハ看守長立會、看守ニ於テ之ヲ検査スヘシ但飲食物ノ検査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第八十八條 検査ノ爲メ解縫シタル衣類臥具ニシテ差入ヲ許スモノハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第八十九條 免幽閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨及教育

第九十條 教誨ハ免役日曜日又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十一條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九十二條 幼年囚懲治人ノ教育ハ小學程度ニ依リ修身讀書算術地理歴史習字體操其他必要ナル學科ヲ授ケルモノトス

第九章 賞譽

第九十三條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヒ上衣ノ左袖肩膊間ノ表面ニ縫著スルモノトス

第九十四條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

- 一 衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス
- 二 書信ハ一箇月ニ三通之ヲ爲スコトヲ許ス
- 三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタリシムルコトアルヘシ
- 四 賞表一箇ヲ得タル者ニハ菜ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回金二錢ヲ超ユルコトヲ得ス
- 五 定役囚ノ工錢ハ左ノ例ニ依リ給與スルモノトス

監獄則施行細則 教誨及教育、賞譽

賞表一箇ヲ得タル重罪囚ニハ十分ノ三輕罪囚ニハ十分ノ四其二箇ヲ得タル重罪囚ニハ十分ノ四輕罪囚ニハ十分ノ五其三箇ヲ得タル重罪囚ニハ十分ノ五輕罪囚ニハ十分ノ六ヲ給ス

第九十五條 在監人左ニ搦ケタル所爲アルトキハ金五十錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

- 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
 - 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
 - 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ
- 刑事被告人ニ係ルトキハ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ニ通知スヘシ

第十章 懲罰

第九十六條 在監人中犯則者アルトキハ其取調中他ノ者ト離隔シ置ケヘシ

第九十七條 懲罰ヲ受ケタル者ハ其罰期終ルモ監房ヲ別異スヘシ但改悛ノ情著

シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第九十八條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第九十九條 兩脚ニ施飲ノ者改悛ノ狀顯ハレ其施飲期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ飲ハ免除スルコトヲ得

第一百條 施飲ノ者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施飲期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其飲ヲ免除スルコトヲ得

第一百一條 假ニ飲ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施飲期限ニ算入スヘカラス

第一百二條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ教誨師醫師ヲシテ之ヲ訪問セシムヘシ

監獄則施行細則 賞與

竊盜ノ罪ニ關スル件(明治二十三年十月法律第九十九號)

朕竊盜ノ罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 田野、山林、川澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條 第二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贓物現存セサルトキハ其中等ノ價額ニ據ル可シ

公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件(明治二十三年十月法律第一百號)

朕公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

刑法中官廳、官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印、文書及免狀、鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ適用ス

刑法新舊法比照(明治十四年十二月太政官布告第八十一號)

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ
第一條 新舊法比照左ノ如シ

竊盜ノ罪ニ關スル件 公署、公吏並公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件 刑法新舊法比照

免狀鑑札ニ關スル件 刑法新舊法比照

新法	舊法
一 死刑	斬絞
二 無期徒刑	懲役終身
三 有期徒刑	懲役終身
四 無期徒刑	禁獄終身
五 有期流刑	
六 重懲役	懲役十年
七 輕懲役	懲役七年
八 重禁獄	禁獄十年
九 輕禁獄	禁獄七年
十 重禁錮	懲役十一日以下 五年以下
十一 輕禁錮	禁獄終身十一日以下 五年以下

十二 罰金
 科料二圓以上
 科料二圓以下
 懲役禁獄罰金
 拘留一日以下

十三 拘留
 拘留一日以下

十四 科料
 科料二圓未滿

第二條 舊法ノ刑罰新法主刑ノ刑罰内ニ在ル時ハ新法ニ從テ其舊法ノ刑罰ニ違
 クルコトヲ得ス 舊法ニ於テ懲役百日ニ該シ者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ
 スルノ類 重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從テ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處
 ノ類

若シ舊法ノ刑罰新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定メテ新法ニ定メテ
 時ハ舊法ニ從テ下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照ラシ一月以上一年以
 第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從テ其長期ノ
 短キ者ニ過クコトヲ得ス 舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ
 從テ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類 照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ

新法新舊法比類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ
ニ從フ年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁錮ニ處ス
ルノ類

第八條 舊法ノ賄罪收賄者クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數算數アル者ハ其算數ノ算キ者ニ從フ但其多數ノ算キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ舊法ニ於テ罰罪收賄者クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ賄罪收賄ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサ

ル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未満ト雖モ仍キ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監獄ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處罰スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ禁錮ニ該ル者ハ仍キ禁錮ニ處ス
右條 勅旨布告候事

利法新舊法比照

罰例處斷法(明治十四年十二月大政宣)

布告第七十二號

明治十五年一月二日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ

照シテ處斷スヘシ

第一條 凡禁錮ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁金及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未満ヲ五錢以上壹圓九錢

五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ管可申付ト

アルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 二十三年法律第六號ニ依リ第七條消滅

決闘罪ニ關スル件(明治二十二年十二月)

法律第三十四號

除決闘罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應ジタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮

ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人何等

ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ

罰例處斷法 決闘罪ニ關スル件

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

富興行禁止 (明治元年)

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ住々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以テ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣旨ニ相反候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

富籤賣買者等處分方 (明治十五年五月)

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原少キ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徴スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス 再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シ 富興行禁止 富籤賣買者等處分方 百七十八